

台風7号の接近に伴う農作物等の管理対策の徹底について

平成30年7月2日
福井県農業総合指導推進会議

- ハウス等の強風対策を徹底する。
- 夏ソバは、台風通過前にできる限り収穫する。
- 大豆、白ネギの排水対策を徹底する。

1 共通事項

- ・人命第一の観点から、豪雨・強風の中でのほ場の見回りは、大雨や強風が治まるまで行わない。
- ・大雨がおさまった後でも、増水した水路等の危険な場所には近づかない。
- ・冠水や浸水しないように、排水溝を掘り直す。特に、毎回、冠水や浸水した圃場は、重点的に排水対策を実施する。
- ・台風通過後、適切な病害虫防除に努める。

2 園芸施設等

- ・破損している箇所は早急に修繕する。
- ・フィルムの取付金具やハウスバンドを確認する。
- ・パイプの埋め込みが浅くなっていないか確認し、浅い場合は、土を入れて締め固める。
- ・周囲に防風ネットも飛ばされないように、再度点検、補強を行う。風により飛ばされやすいものは片づけておく。
- ・風が強くなってきたら天窓、サイドビニール、入口を閉める。
- ・換気扇がある場合は、稼働させてハウス内を負圧にする。

<通過後>

- ・施設、機器の点検を行い、破損した場合は早急に修繕する。
- ・冠水した場合は、排水ポンプや溝切り等により、速やかに排水する。
- ・ハウス内の適切な温湿度管理に努める。
- ・マルチ栽培をしている畝が冠水した場合は、中が水分過多となりやすいので、マルチを除去したり、畝肩までめくり上げ、土を乾かす。
- ・土壌表面が固くしまった場合は、軽く中耕し、表土の通気をよくする。

3 水稲

- ・風雨がおさまるまで、できるだけ深水にして稲株の損傷を避ける。

4 夏ソバ・大豆

- ・夏ソバは、台風通過前にできる限り収穫する。
- ・大豆では、速やかに排水できるように、排水溝や落水口を確認し手直しを行う。また、培土済みの圃場では、枕地の培土が排水を妨げないよう、所々切り通しておく。

<通過後>

- ・圃場の停滞水を早急に排水する。

5 野菜(露地)

- ・ネギでは、浸水で根腐れを起こすので、排水溝を手直しする。また、株のゆれを軽減するため、土寄せを行う。

<通過後>

- ・圃場の停滞水を速やかに除去し、圃場を乾かす。
- ・根元が露出している場合は、土寄せを行う。
- ・病気にかかっている株は、被害の拡大を防止するため、直ちに抜き取り圃場外に廃棄する。
- ・追肥、液肥の葉面散布等により生育の回復に努める。
- ・適宜、防除する。

6 果樹

- ・枝の揺れによる果実の傷や枝折れを防ぐため、支柱等の点検、補強、設置を行う。
- ・ナシ等の棚栽培では、風による棚面の動揺を防ぐため、棚の「あおり止め」などの点検を行うとともに、枝梢を棚に誘引・結束しておく。

<通過後>

- ・倒木した場合は速やかに立て直し、支柱等にくくりつける。枝が裂けた場合は傷口を合わせ結束する。折れた場合は切り戻す。いずれの場合も癒合剤を塗布する。
- ・傷果等が発生した場合は摘果を徹底する。

7 花き

- ・フラワーネットの支柱はしっかり打ち直し、中間にタルキグイを増やして補強する。
- ・畝の横風に対しては1、2本おきに隣の畝の支柱どうしをハウスバンドで連結して固定する。
- ・ネットは花の先端から3分の1程度下がったところで支持する。

<通過後>

- ・強風により傾いた花は、茎や花の曲りを防止するため、早急に立て起こす。
- ・株腐れや根腐れを防止するため、通路の排水を行う。

8 畜産

- ・施設の損傷、倒壊等を避けるため、必要に応じて補修を行う。
- ・施設や保管飼料への雨水の侵入を防ぐ。
- ・放牧地においては、牧柵等の破損、土砂崩れ等の発生する危険がある場合は、速やかに牛を牛舎に引き上げる。

<通過後>

- ・畜舎等が浸水した場合は、すぐに排水し、疾病予防のため洗浄・消毒し、乾燥に努める。
- ・牧草地で侵食や土砂流入が発生した場合は、早急に現状復帰を図り、生産力回復の必要があれば牧草の播種等を行う。